

山行報告書

日時	2024年2月23日～24日		天候	1日目雨のちみぞれ、雪、2日目晴れ
山名	南アルプス:易老岳～光岳			
CL	HIRO	参加者	S行、ナン、T中、N川(山遊会)、会員外1名(S行友人)	
(コース)	1日目:芝沢ゲート5:00→易老渡登山口6:30→易老岳14:10→三吉平17:00→光小屋19:30 2日目:光小屋8:45→光岳10:00→三吉平11:15→易老岳14:00→易老渡17:50→芝沢ゲート19:00			
(コメント)	<p>【HIRO】 光岳は昨年のお盆に計画しましたが台風のために中止となり、次の機会を伺っていました。九州からは遠いために連休以外は計画するのが難しいうえに、シーズン中は営業小屋やテント場も小さいため、なかなか予約が取れない山になっています。そのこともあって冬期に登山することにしました。事前の情報で冬期小屋が広くて使いやすく、登山者も少なからず入っていて人気のある山であることと、アルプスの中でも南は比較的にも雪も風も穏やかであること、標高も2591mと他の3000m級のアルプスよりも登りやすいと判断しました。</p> <p>しかしながら、実際は稜線が不明瞭なうえに樹林帯の連続で、ルートが分かりづらい中でのラッセルの連続と厳しい山行となりました。そのためにメンバーには、とても辛なおもいをさせてしまいました。いずれもコース研究の甘さが原因でした。リーダーとして反省すべき点が多々あります。</p> <p>また、自分自身の体力面でも衰えを感じ、なかなか思うようにグループをリードすることができませんでした。今後の山域選択も体力に合わせて慎重さが必要と痛感しました。</p> <p>結果的には登頂日は予報通りの晴天に恵まれ、風も無く、気温も高めで快適な登山になりましたが、1日目の負担が大きかったために、下山時のスタミナに余裕はありませんでした。もしも2日目に予報が外れ天候が崩れた場合は下山で事故を起こす可能性も大きかったことを考えると、今回の登山は勇気をもって中止するか、易老岳で引き返す判断が必要だったと下山して反省しています。</p> <p>厳しい山行ではありましたが、全員で協力してルートを開き、苦しい中でも笑顔を絶やさず励まし合った仲間に深く感謝しています。</p>			
	<p>【S行】 南アルプス南部光岳登山の計画をリーダーからお聞きして、かつて南アルプスはかなり行ったことがあります。光岳は行ったことがなく、大変興味があり、また、冬季に行くということで益々そそられるものがあり、参加いたしました。事前にコースタイムを見るとかなり困難なものになるとは想定して行きました。しかしながら初日は天気予報通りではあったものの天候不良のため、より一層困難な山行となりました。</p> <p>一日目～前泊の時点で雨が降り出し、悪天予報通りになりました。途中、みぞれから雪に変わっていく中で手袋の交換時期を間違えてしまい、手指の凍傷になってしまい、メンバーに迷惑をかけてしまったことが最反省点です。幸い凍傷は軽度で処置も早かったため回復に向かっています。また元々右膝を痛めていたのが完治していない状態で参加したため、ラッセルでの貢献がほとんどできず、メンバーにさらなる負担をかけて大変申し訳なく思っております。</p> <p>ただ、二日目は天気も回復し見たかった富士山や北ア、八ヶ岳などがきれいに見えたことだけは満足出来ました。また光岳頂上でN家さんより北海道旭岳仕込みの天然白熊をごちそうになり感激いたしました。</p>			

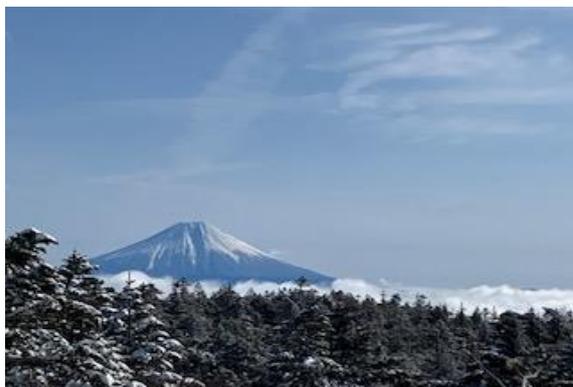
	<p>【T中】 学生時代の夏に南アルプスを縦走しましたが、光岳を登り残していたので、今回参加させていただきました。南アルプスを冬に登るのは初めてで、行程が長く、高度差もあり、なかなか厳しい山行でした。その分、光小屋や山頂から見る富士山や聖岳などの冬山の景色は最高でした。長尾リーダーをはじめ皆さんのおかげで、いろいろな経験を積むことができ、本当に貴重な山行となりました。有難うございました。</p> <p>【ナン】 陳腐な言い方だが、「苦難の後に幸訪れる」を体感した山行となった。四季を通じて初となるアルプス登山が、なぜか厳冬期にー。芝沢ゲート登山口でのテント泊では、心地よい緊張感に包まれ高揚しながら眠りに就いた。氷雨に体を濡らしつつ山への取り付きとなる易老渡(いろうと)へ。そこから易老岳までは標高差1500mの急坂だ。登り上がるに従い体力をじわじわ奪われる。トレースなしの低木帯の夏道をテープ頼りに進むと、アイゼン履きの靴が雪面深くもぐって脚に疲労が蓄積していく。三吉平からイザルガ岳分岐に至る小沢のラッセルに差しかかる頃に日没を迎え、まさかの雪山ヘッデン行動。きらめく星を心の中で希望に換え、力を振り絞った。光小屋に19時半に着いたときは、飯を食べるエネルギーしか残っていなかった。翌朝は快晴無風。小屋前から富士山が見えると聞いてはいたが、信じられない大きさで迫る雄姿から目が離せない。前日の特大苦労が圧縮された。自分の最高到達点である光岳(2591m)では、コッヘルに盛った新雪に練乳をかけ桃缶を載せ「南アルプスの白熊」のでき上がり。メンバーもおいしいと喜んでくれた。「楽の後にまた苦あり」は想定外だった。易老岳から易老渡までの下り1500mの長いこと長いこと。無事に下山できたのは、ラッセルの大半をしてくれた長尾リーダーのおかげです。ありがとうございました。ただ、下山は計画書の記載時刻から7時間遅れで、留守宅のナカシーさんに大変ご迷惑をおかけしたのが反省です。</p>
費用概算	(交通費/人)往復 車にて6人 約¥20.700/人 (その他/人)

(2019/3/10改訂)

【2日目 @光岳ピーク】



【光岳付近から富士山】



【光岳から聖岳】



【光小屋から富士山】



【光岳ピークで天然シロクマ made by Nさん】



とても美味しくいただきました。
有難うございました。

